

4

Social

社会

Supply Chain

サプライチェーン

重要課題

- 気候変動・エネルギー問題への対応
- サプライチェーン全体へのサステナビリティ活動の展開

4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

> 基本的な考え方…………… 88

購買の基本的な考え方…………… 89

購買のグローバルマネジメント
…………… 91

購買に関する取り組み…………… 92

物流の基本的な考え方…………… 97

物流のグローバルマネジメント
…………… 98

物流に関する取り組み…………… 99

業界団体・サプライヤーとの
取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

基本的な考え方

サプライチェーンのサステナビリティ強化に向けて

環境問題や人権問題に配慮しながらも、世界各地のお取引先とサプライチェーンを構築し、その最適化に力を注ぐことは、より良い製品・サービスを、お客様に迅速かつ安定的に提供するためにも必要とされています。

裾野が広く、多くのお取引先によって支えられている自動車業界は、自社単独ではなく、お取引先を含めたサプライチェーン全体で環境負荷低減を追求していく必要があります。

また、昨今、コンプライアンスや人権に対する世界的な意識が高まるなか、自社のみならず、お取引先の労働環境や法令遵守などの状況を適切に把握し、必要な場合は是正に努めることが、企業に求められています。

Hondaは、サステナビリティに対する考え方を全世界のサプライヤーと共有し、ともに推進していくための「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」を発行しています。

このガイドラインに基づきお取引先とともに、それぞれの開発・製造現場で、サステナブルな取り組みを積極的に進めていくことで、地域に根付き、好かれ、「存在を期待される企業」として、地域社会と共存共栄するサプライチェーンの実現をめざしています。

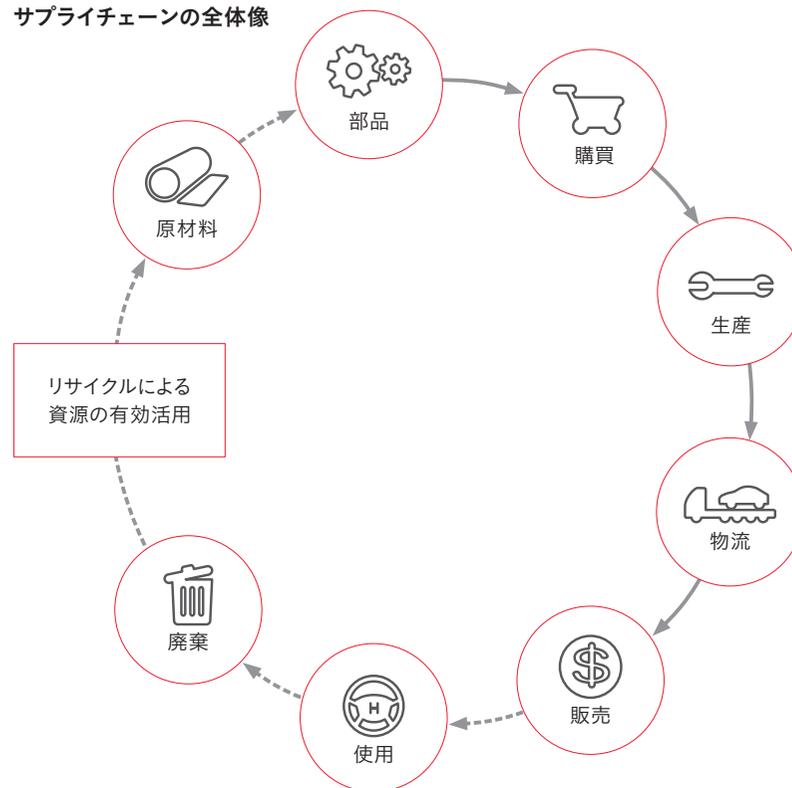
サプライチェーンにおけるサステナビリティ強化は、主に購買領域と物流領域で取り組んでいます。

また、今年度の組織再編として購買領域と物流領域を融合させ、昨年度まで物流特化で開催されていた「グローバルSCMコミッティ」を、購買と物流領域を束ねたサプライチェーン全体のグローバル会議体として「グローバル会議」というかたちで新たに発足させました。

この会議体では主に下記の3つを目的とし、全地域で会議を開催しています。

- 6地域共通テーマについて、テーマ別に適切なタイミング・メンバーにて議論を行う
- 各地域発のグローバル課題について、サプライチェーン購買領域のトップ間で直接議論し課題解決を図る
- 今後課題となり得る案件を共有し、対応方向性を議論する

サプライチェーンの全体像



4 社会

- 【安全】…………… 33
- 【品質】…………… 47
- 【人材】…………… 63
- 【サプライチェーン】…………… 87
 - 基本的な考え方…………… 88
- > 購買の基本的な考え方…………… 89
 - 購買のグローバルマネジメント…………… 91
 - 購買に関する取り組み…………… 92
 - 物流の基本的な考え方…………… 97
 - 物流のグローバルマネジメント…………… 98
 - 物流に関する取り組み…………… 99
 - 業界団体・サプライヤーとの
取り組み…………… 102
- 【社会貢献活動】…………… 103

購買の基本的な考え方

購買理念／購買3原則／購買スタッフの心得

Hondaは、世界中すべてのサプライヤーとともに、環境、安全、人権、コンプライアンス、社会的責任などに配慮し、サプライチェーン全体でサステナブルな社会の実現に取り組んでいます。「Hondaフィロソフィー」をベースとして、「購買理念」「購買3原則」を定め、公平、公正、かつ透明性の高い取引を行っています。

また、購買活動を行う従業員一人ひとりが守るべきことを「購買スタッフの心得」としてまとめ、本心得を遵守することで、社内外からの信頼およびサプライヤーとの健全な関係を、より確かなものとしています。

購買理念と購買3原則

わたしたちは、「購買理念」「購買3原則」を通して、公平、公正、かつ透明性の高い取引を行います。

購買理念

良い物を、適正な価格で、タイムリーにかつ、永続的に調達する

購買3原則

自由な取引

わたしたちは、品質や量、価格、タイミングを満足し、かつサステナビリティに対する考え方を共有できるお取引先と、自由競争に基づく取引を行います。

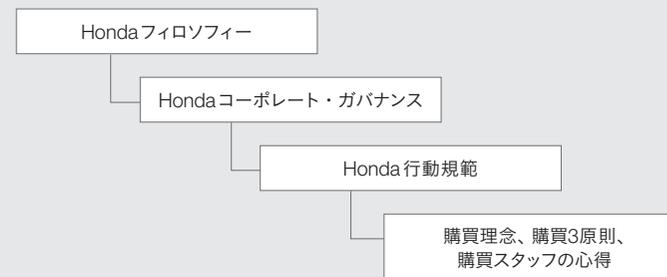
対等な取引

わたしたちは、企業規模や国籍等にかかわらず、お取引先と対等の立場で取引を行います。

お取引先の尊重

わたしたちは、お取引先の経営とその主体性を尊重します。

購買理念・購買3原則・購買スタッフの心得の位置付け



4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

 基本的な考え方…………… 88

> 購買の基本的な考え方…………… 89

 購買のグローバルマネジメント…………… 91

 購買に関する取り組み…………… 92

 物流の基本的な考え方…………… 97

 物流のグローバルマネジメント…………… 98

 物流に関する取り組み…………… 99

 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

購買の基本的な考え方

サプライヤーとのエンゲージメント

Hondaは、グローバルでの部品調達活動をするなかで、全世界のサプライヤーとともにサステナビリティの取り組みを推進し、各地域社会と共存共栄するサプライチェーンの実現をめざすという考えを「サステナビリティビジョン」として掲げています。さらに、そのビジョンのもと、サステナビリティに対する考え方を全世界のサプライヤーと共有し、ともに推進していくための方針として「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」(右リンク参照)を発行しています。

このガイドラインを通じて、コンプライアンス違反等の問題事象の未然防止、環境負荷低減に努めています。

実際に問題事象が発生した場合には、サプライヤーからの即時報告を受け、原因分析・改善計画の策定を依頼し、再発防止を図っています。

サプライヤーからの改善計画が十分でないと判断された場合は、問題事象の社会的影響度等に鑑みながら、将来的な取引の継続可能性について検討します。

併せて、サプライヤーでの取り組み状況の点検や二次サプライヤーへの展開のためのチェックシートを活用し、サプライチェーン全体にガイドラインが浸透し、推進されるよう努めています。

これらサステナビリティの方針に基づき、部品や原材料の調達先の選定にあたっては、QCDDDE※、人権、労働、安全、コンプライアンス、リスクや情報保護などへの取り組みを確認し、最適なサプライヤーを決定しています。

サプライヤーからの提案・相談受付窓口の設置

「企業倫理改善提案窓口」(➡p.125)を設置し、公平かつ中立な立場で、すべてのサプライヤーから提案や相談を受け付けています。

「Honda サプライヤーサステナビリティ ガイドライン」
 ■ <https://www.honda.co.jp/sustainability/supply-chain/pdf/supplier-sustainability-guidelines.pdf>

購買活動の変遷



※ QCDDDE: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (調達)、Development (開発)、Environment (環境) の略。

4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

基本的な考え方…………… 88

購買の基本的な考え方…………… 89

> 購買のグローバルマネジメント
…………… 91

購買に関する取り組み…………… 92

物流の基本的な考え方…………… 97

物流のグローバルマネジメント
…………… 98

物流に関する取り組み…………… 99

業界団体・サプライヤーとの
取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

購買のグローバルマネジメント

推進体制

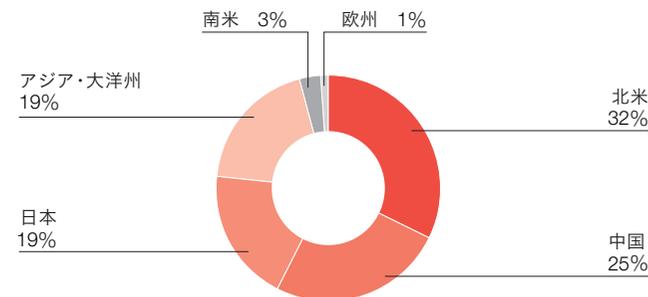
Hondaは、世界6地域で事業を展開しており、それぞれに購買の機能を設け、「需要のあるところで生産する」という会社理念に基づき、各地域での現地調達を推進しています。主要な生産拠点である北米における現地調達率は、主要グローバルモデルで約80%に達しています。

日本には、グローバル全体の機能を統括する部門が置かれており、地域・事業を横断的に取りまとめ、サステナビリティ方針や展開目標を企画しています。2016年には、サステナビリティの取り組みを強化・加速するため、専任部署を設置しました。

さらに、グローバルでの中長期的な方向性について議論・検討するために、各地域のマネジメント層との会議を定期的に行い、連携を図っています。

また、グローバルサプライチェーン全体で低炭素への取り組みを強化するために、「購買環境会議」を2011年から開催してきました。この会議は各地域の実務担当で構成され、世界各地のサプライヤーと一体となった取り組みをめざして、グローバルで統一したCO₂低減の展開方針や達成手段について、議論と整合を行っています。2016年度からは、人権やコンプライアンスなどの取り組みを加え、「購買サステナビリティ会議」へと進化させました。

地域別の購入額比率 (2022年度)



4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

 基本的な考え方…………… 88

 購買の基本的な考え方…………… 89

 購買のグローバルマネジメント…………… 91

> 購買に関する取り組み…………… 92

 物流の基本的な考え方…………… 97

 物流のグローバルマネジメント…………… 98

 物流に関する取り組み…………… 99

 業界団体・サプライヤーとの
 取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

購買に関する取り組み

サプライヤーとの環境負荷低減

Hondaは、お取引先と「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」を共有し、環境負荷低減活動を推進しています。

新規取引開始時にすべてのサプライヤーと共有・同意のもと、ともに低炭素サプライチェーンの実現に取り組んでいます。

カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

2050年に、Hondaが関わるすべての製品と企業活動を通じて、カーボンニュートラル（二酸化炭素排出量、実質ゼロ）をめざすことを決めました。

日本では、2021年10月にサプライヤーに対し、CO₂排出総量削減に向けた取り組みの検討を依頼、さらに2022年12月には、2050年カーボンニュートラルに向けた具体的な取り組み施策検討に向け、施策観点の共有を実施しました。Hondaは、サプライヤー各社とコミュニケーションを取りながら、協働でカーボンニュートラル実現に向けて取り組んでいきます。

CO₂データの管理

取り組みの実効性を高めていくために、2011年度からサプライヤーのCO₂排出量低減に関わるデータを一元的に管理するシステムの整備を進め、2014年度から本格運用を開始しました。また、2017年度から「CDPサプライチェーンプログラム」に参加しています。

これらのツールを利用して、グローバル各地域のサプライヤーとともに、総量低減に向けた目標と、その達成状況を共有し、PDCAサイクルを回しています。

2022年現在、グローバルでの購入額の8割に相当する約1,700社にこれらのツールを活用いただいています。

今後も共有いただいたデータを多面的に分析し、サプライヤーの総量管理目標を含めたCO₂低減活動に役立てていきます。

4 社会

- 【安全】…………… 33
- 【品質】…………… 47
- 【人材】…………… 63
- 【サプライチェーン】…………… 87
 - 基本的な考え方…………… 88
 - 購買の基本的な考え方…………… 89
 - 購買のグローバルマネジメント…………… 91
- > 購買に関する取り組み…………… 92
 - 物流の基本的な考え方…………… 97
 - 物流のグローバルマネジメント…………… 98
 - 物流に関する取り組み…………… 99
 - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 102
- 【社会貢献活動】…………… 103

購買に関する取り組み

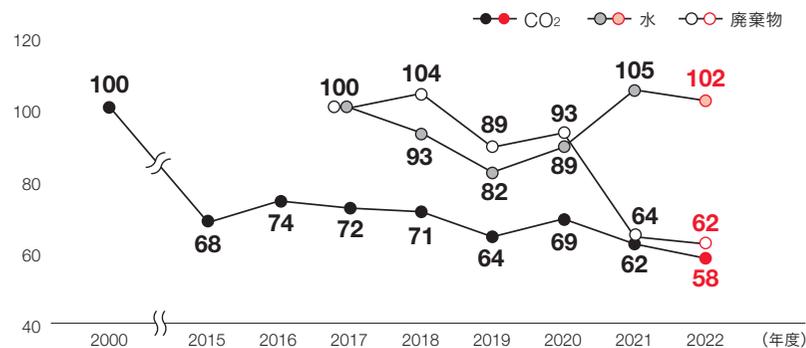
サプライチェーンでの環境負荷低減の取り組み

Hondaは、サプライヤーとともに、CO₂低減や資源の効率利用といった環境負荷低減のための取り組みを、各地域で進めています。

また、日本ではグループサプライヤー各社におけるCO₂・水・廃棄物について、具体的な数値目標を定め、各社とHondaが一体となり、低減活動を推進しています。

水・廃棄物については、2018年度より目標管理に向けた取り組みを開始しており、2022年度の目標値(2019年度基準年原単位以下)を定め、データの収集を行っています。その一環として、グループサプライヤー各社の進捗・実績分析のためのツールを展開し、環境負荷低減活動の取り組みや体質確認を実施しています。Web確認を通じたコミュニケーション・情報共有等を行いながら、グループサプライヤーと協働で、目標達成に向けた取り組みを推進しています。

環境負荷低減実績
CO₂排出量/水資源使用量/廃棄物等発生量 原単位指数



※ データ対象：日本国内連結対象の一次サプライヤーすべて。

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
CO ₂ (t/百万円)	1.08	1.07	0.95	1.03	0.93	0.86
水 (m ³ /百万円)	9.99	9.29	8.19	8.91	10.51	10.16
廃棄物 (t/百万円)	0.59	0.62	0.53	0.55	0.38	0.37

4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

 基本的な考え方…………… 88

 購買の基本的な考え方…………… 89

 購買のグローバルマネジメント…………… 91

> 購買に関する取り組み…………… 92

 物流の基本的な考え方…………… 97

 物流のグローバルマネジメント…………… 98

 物流に関する取り組み…………… 99

 業界団体・サプライヤーとの
 取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

購買に関する取り組み

化学物質管理

Hondaは、製品を構成するすべての部品などに関する法規遵守と、地球環境や生態系に対する影響の軽減を目的とした「Honda製品化学物質管理基準書」を発行しています。グローバル各地域のサプライヤーに対して、この基準に適合する化学物質管理体制の構築を依頼するとともに、基準を満たした部品の供給について保証をお願いしています。その具体的な含有化学物質データについては、業界標準の管理システムを活用し、量産開始前に評価を実施しています。

調達リスクへの対策

Hondaは、災害、火災、サプライヤーの財務課題や労働問題など「生産に影響を与えるすべての事象」をリスクと捉え、部品や材料調達に至るまでのサプライチェーン全体で、その低減と顕在化した際の影響の拡大を未然に防ぐための活動を行っています。例えば、調達先を一つの工場に依存している部品や材料を「課題部品」と定義し、全世界で継続的に点検と対策を実施しています。

この取り組みの一環として、2014年12月から日本国内のサプライヤーとの間で調達リスク管理システムの運用を開始し、大規模災害発生から短時間で、被災地にあるサプライヤーの被災状況と生産への影響を把握できる体制を整えました。

また、財務リスクの最小化においては、各サプライヤー調査に基づいた評価を毎年1回実施しています。加えて、第三者機関の情報を参考に、リスク確認を毎月実施しています。

※ RMI : Responsible Minerals Initiative (責任ある鉱物イニシアチブ) の略。

サプライヤーへの法令遵守要請

Hondaは、コンプライアンスを含めたサプライチェーン全体でのサステナビリティ強化を図っています。取引にあたっては、各国の競争法や贈収賄防止関係法令などの各法令の遵守に加え、安全・防災・環境保全や資源保護などへの留意を明記した「部品取引基本契約書」を取り交わしています。

責任ある鉱物調達

Hondaは、電動化にともなうコバルトをはじめとする希少鉱物の需要拡大が、児童労働をはじめとした人権問題につながる可能性があることを認識しており、人権侵害および環境汚染につながる可能性がある鉱物の不使用をめざした活動を行っています。日本では、RMI※が提供するテンプレートを活用し、サプライヤーの協力を得ながらコバルトの製錬所特定を進めています。今後、グローバルでの取り組みも検討してきます。

4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

 基本的な考え方…………… 88

 購買の基本的な考え方…………… 89

 購買のグローバルマネジメント…………… 91

> 購買に関する取り組み…………… 92

 物流の基本的な考え方…………… 97

 物流のグローバルマネジメント…………… 98

 物流に関する取り組み…………… 99

 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

購買に関する取り組み

サプライヤーへのESG※調査の実施

Hondaは、ガイドラインに対する取り組み状況を確認するためのチェックシートをサプライヤーに配布し、自主点検を要請してきました。

「サプライチェーンを含めた企業の社会的責任」を果たすことへの国際的な期待の高まりにともない、Hondaは、2016年より日本で、ビジネスボリュームが大きく影響度の高いサプライヤーを対象に調査を開始し、現在ではグローバルで調査を実施しています。右記のフローをもとに、日本においては、購入額の8割以上を占めるサプライヤーを対象に、定期的なESG調査を実施しています。調査結果をもとに、問題発生の可能性が高い、または発生した場合に自社に影響が大きい、高リスクなサプライヤーを特定しています。書面調査では、以下の項目を実施します。

- 国際標準に基づいた「チェックシート」の配布
- ガイドライン遵守状況の確認
- 改善の推進

「チェックシート」においては、人種・民族や出身国籍・宗教・性別等を理由とした差別の撤廃をはじめ、児童労働・強制労働・人身売買の禁止や最低賃金の保証といった人権・労働問題を網羅しています。その他、環境、コンプライアンス、情報開示など幅広い評価項目を加えて、サプライヤーの取り組みを確認します。

次に、ヒアリング調査では、高リスクのサプライヤーに対し、以下の項目を実施・検証します。

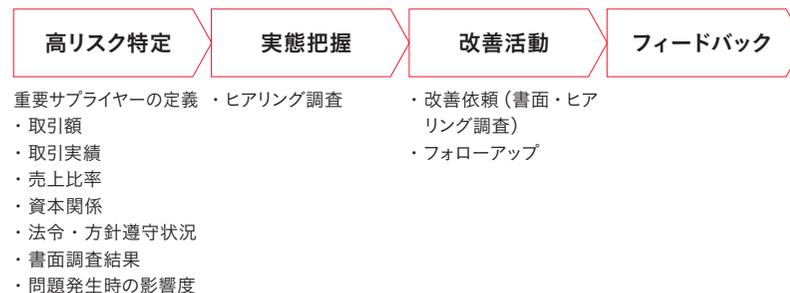
- 関連帳票・生産工程・関連施設の確認
- 「改善計画・実績報告書」による進捗確認
- フォローアップ調査（必要に応じて現地確認を実施）

直近では、外国人労働者の身分証明書預かり禁止のルール設定や労働時間の管理などの項目で、改善が認められました。

今後は、調査担当者の力量養成のために教育の充実を図りながら、海外の購買拠点とも連携し、サステナビリティ活動調査をグローバルで展開していきます。

なお2022年度において、著しいリスクを有する問題事象はありませんでした。

サステナビリティ活動調査のフロー



※ ESG: Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の略。

4 社会

- 【安全】…………… 33
- 【品質】…………… 47
- 【人材】…………… 63
- 【サプライチェーン】…………… 87
 - 基本的な考え方…………… 88
 - 購買の基本的な考え方…………… 89
 - 購買のグローバルマネジメント…………… 91
- > 購買に関する取り組み…………… 92
 - 物流の基本的な考え方…………… 97
 - 物流のグローバルマネジメント…………… 98
 - 物流に関する取り組み…………… 99
 - 業界団体・サプライヤーとの
取り組み…………… 102
- 【社会貢献活動】…………… 103

購買に関する取り組み

従業員教育研修

Hondaは、購買活動に携わる従業員一人ひとりが、誠実で公正な取り組みを推進するために、マニュアル類や人材開発プログラムを各地域で整備しています。

例えば、北米地域では、従業員に対し、講習会、eラーニングやOJT※を通じた広範囲の研修を実施しています。そのなかの「基礎研修コース」では、QCDDE強化の取り組みとともに、サプライヤー選定などに関する購買の考え方を共有しています。また、「ビルディング・ビジネス・リレーションズ」研修では、行動規範、法令遵守や機密保持など、サプライヤーとの良好かつ長期的な関係の重要性についての教育が行われています。

このように、グローバル各地域において、購買活動の基礎知識とともに、それぞれの文化的・社会的背景を反映したプログラムを開発し、全購買従業員を対象として実施しています。

※ OJT: On the Job Training(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)の略。

4 社会

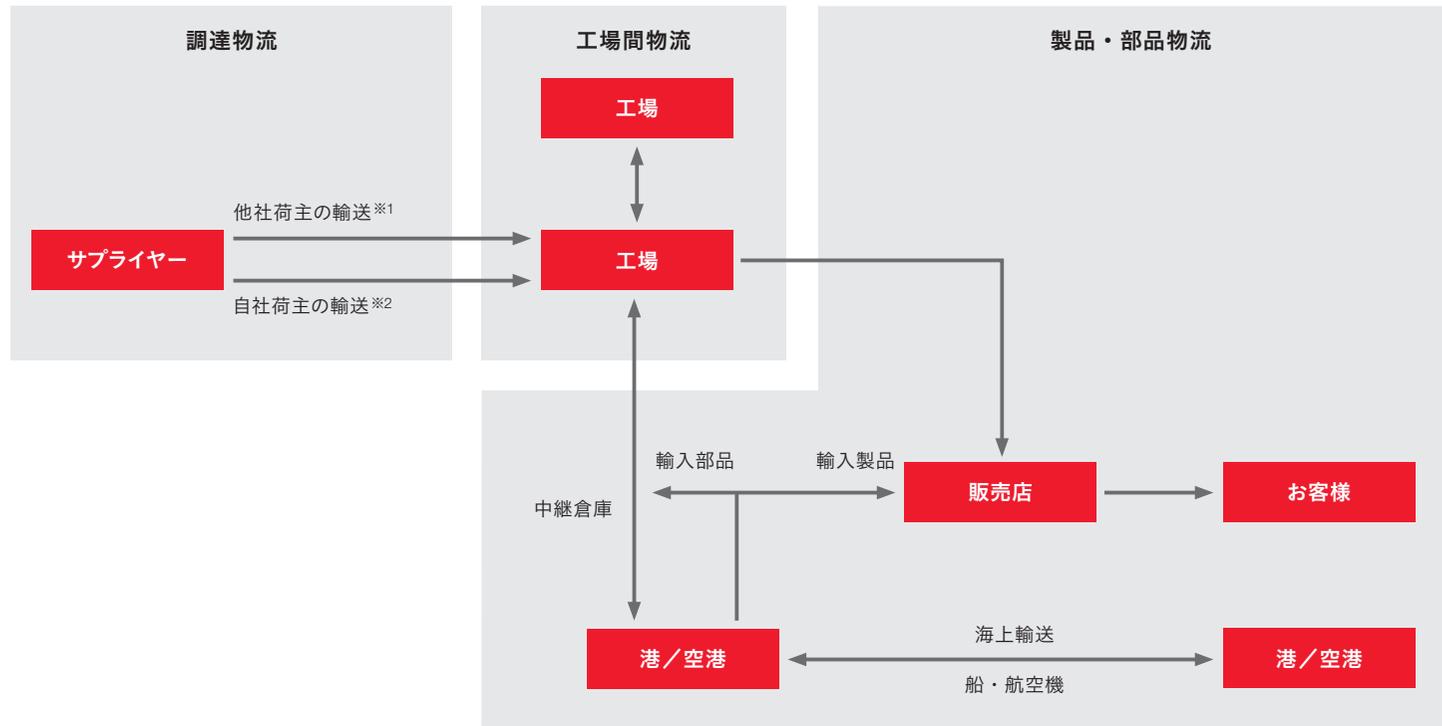
- 【安全】…………… 33
- 【品質】…………… 47
- 【人材】…………… 63
- 【サプライチェーン】…………… 87
 - 基本的な考え方…………… 88
 - 購買の基本的な考え方…………… 89
 - 購買のグローバルマネジメント…………… 91
 - 購買に関する取り組み…………… 92
- > 物流の基本的な考え方…………… 97
 - 物流のグローバルマネジメント…………… 98
 - 物流に関する取り組み…………… 99
 - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 102
- 【社会貢献活動】…………… 103

物流の基本的な考え方

Hondaでは、製品を構成する部品をサプライヤーから工場へ、そして製造した製品や補修部品を工場から販売店へ輸送しています。製造工程の上流から下流まで、大量の輸送を行うHondaにとって、物流における効率化

と併せて、環境負荷の低減およびコンプライアンス・リスクマネジメントは、重要な課題と捉えています。例えば環境負荷低減に向けた課題の取り組みとして「コンテナ輸送の効率化」を進めています。

Hondaの物流領域の全体像



※ 1 他社荷主の輸送：サプライヤーが依頼した輸送業者が、Hondaの工場の軒先まで調達部品を持ってくること。
 ※ 2 自社荷主の輸送：Hondaが依頼した輸送業者が、サプライヤーを回って調達部品を引き取ること。

4 社会

- 【安全】…………… 33
- 【品質】…………… 47
- 【人材】…………… 63
- 【サプライチェーン】…………… 87
 - 基本的な考え方…………… 88
 - 購買の基本的な考え方…………… 89
 - 購買のグローバルマネジメント…………… 91
 - 購買に関する取り組み…………… 92
 - 物流の基本的な考え方…………… 97
- > 物流のグローバルマネジメント…………… 98
 - 物流に関する取り組み…………… 99
 - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 102
- 【社会貢献活動】…………… 103

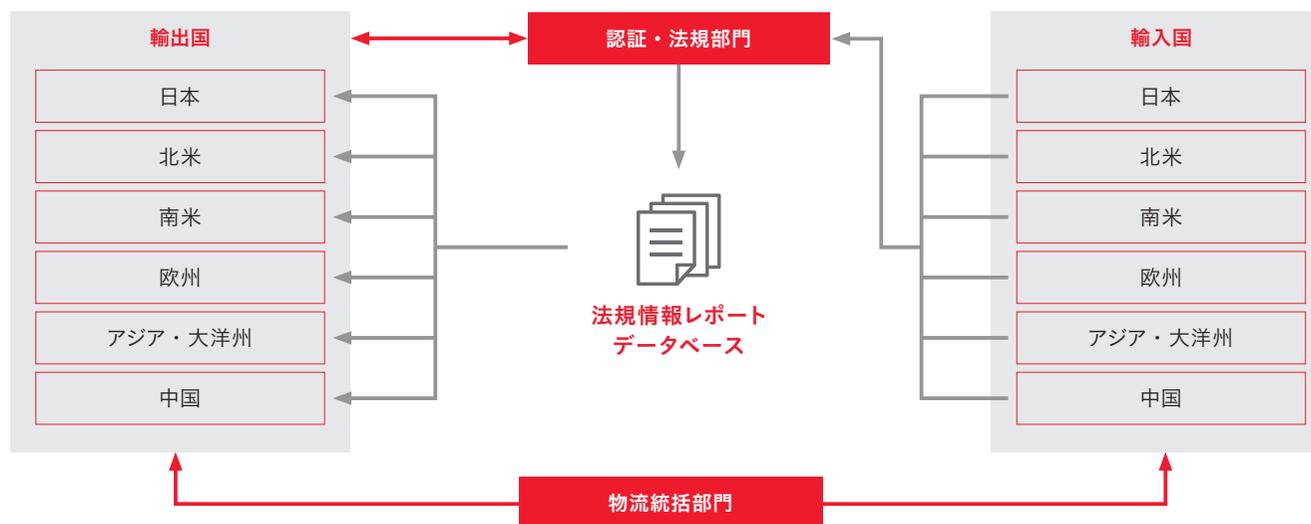
物流のグローバルマネジメント

物流法規情報の一元管理

国や地域をまたいで製品や部品を供給するためには、各国で異なる輸送インフラや規制、自然災害リスクなど、さまざまな状況を把握・分析することが必要となります。とくに、法規制は、輸送の安全やスピードに大きな影響を与える可能性があります。

Hondaでは、つねに正確な情報をつかみ、グローバル全体で効率良く確実にかつ状況に先んじた対応がとれるよう、物流オペレーションに関わる国際条約や法規情報を一元管理する機能を構築しています。これに加え、より迅速に対応を行うことで、法令遵守対応の強化に取り組んでいます。

法規情報の一元管理の仕組み



4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

基本的な考え方…………… 88

購買の基本的な考え方…………… 89

購買のグローバルマネジメント…………… 91

購買に関する取り組み…………… 92

物流の基本的な考え方…………… 97

物流のグローバルマネジメント…………… 98

> 物流に関する取り組み…………… 99

業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

物流に関する取り組み

Hondaでは物流領域においても2050年カーボンニュートラル実現に向けて、

- ① 高効率輸送（スマート物流）
 - ② 低炭素輸送（クリーン物流）
 - ③ 梱包資材の技術進化
- という3つの主要な取り組みを行っております。

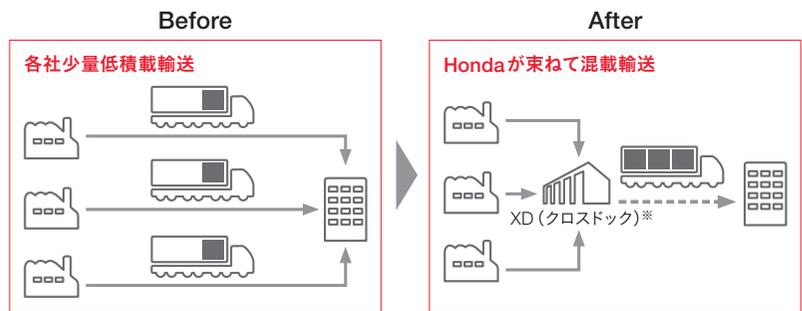
① 高効率輸送（スマート物流）

Hondaでは、物流に関するQCD（Quality：品質、Cost：コスト、Delivery：納期）改善のために、高効率な輸送を推進しています。

取引先共創による輸送効率向上

お取引先が抱えている物流ロスを最小化するために、お取引先出荷拠点の最寄りのXD（クロスドック）まで搬入いただき、XDからはHondaが複数社混載で太く束ねて効率よく運ぶ施策です。

その効果として、遠方のお取引先の負荷低減やCO₂排出量の低減などに貢献しています。

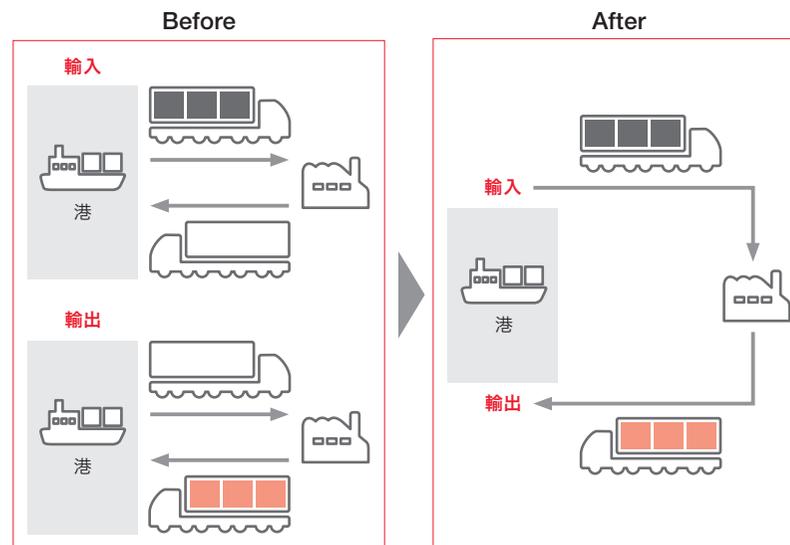


※ XD (クロスドック)：部品の積替えを中心とした機能を持つ倉庫。

コンテナラウンドユース

コンテナは船会社からのレンタル品であるため、貨物輸送後にすみやかに返却するのが一般的な商慣習です。

しかしながら、Hondaには輸出貨物、輸入貨物があるため、コンテナ返却時に発生するムダな空コンテナ輸送を削減するため船会社と交渉しました。日本では40～60%のコスト削減とCO₂排出量削減を同時に達成することができました。



4 社会

【安全】..... 33

【品質】..... 47

【人材】..... 63

【サプライチェーン】..... 87

基本的な考え方..... 88

購買の基本的な考え方..... 89

購買のグローバルマネジメント..... 91

購買に関する取り組み..... 92

物流の基本的な考え方..... 97

物流のグローバルマネジメント..... 98

> 物流に関する取り組み..... 99

業界団体・サプライヤーとの取り組み..... 102

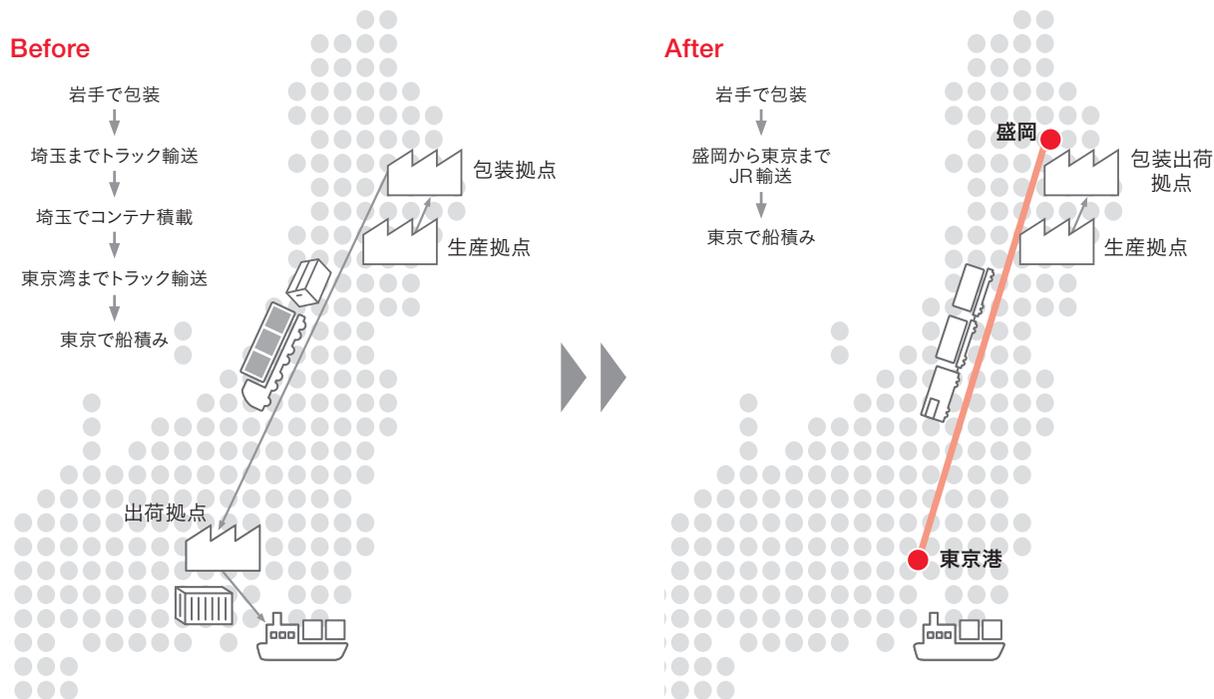
【社会貢献活動】..... 103

物流に関する取り組み

② 低炭素輸送（クリーン物流）

Hondaでは遠方地域への輸送を中心に、輸送手段をトラックから鉄道や船舶に切り替える「モーダルシフト」の拡大に取り組んでいます。インドやベトナムにおいては、遠方地方への輸送をトラック輸送から船舶輸送や鉄道輸送に切り替えています。また、中国においても同様にトラック輸送から鉄道輸送へ切り替えを行っています。

日本でも鉄道輸送への切り替えに取り組んでおり、汎用製品の輸送において盛岡から東京への鉄道輸送を2022年6月より開始しており、2022年6月から2023年3月までに26.84t-CO₂削減となっています。



Honda サステナビリティレポート2018 p.100 ■ <https://www.honda.co.jp/sustainability/report/pdf/2018/Honda-SR-2018-jp-all.pdf#page=101>

Honda サステナビリティレポート2019 p.123 ■ <https://www.honda.co.jp/sustainability/report/pdf/2019/Honda-SR-2019-jp-all.pdf#page=124>

中国〈地球環境を守る活動〉 → p.109

4 社会

【安全】..... 33

【品質】..... 47

【人材】..... 63

【サプライチェーン】..... 87

基本的な考え方..... 88

購買の基本的な考え方..... 89

購買のグローバルマネジメント..... 91

購買に関する取り組み..... 92

物流の基本的な考え方..... 97

物流のグローバルマネジメント..... 98

> 物流に関する取り組み..... 99

業界団体・サプライヤーとの取り組み..... 102

【社会貢献活動】..... 103

物流に関する取り組み

③ 梱包資材の技術進化

Hondaでは、必要な部品を輸出（供給）し、輸入国で完成車（機）の生産を行っています。

これらの部品の輸出で使用する包装資材は、下図のように外装ケースと内装容器に分類されます。

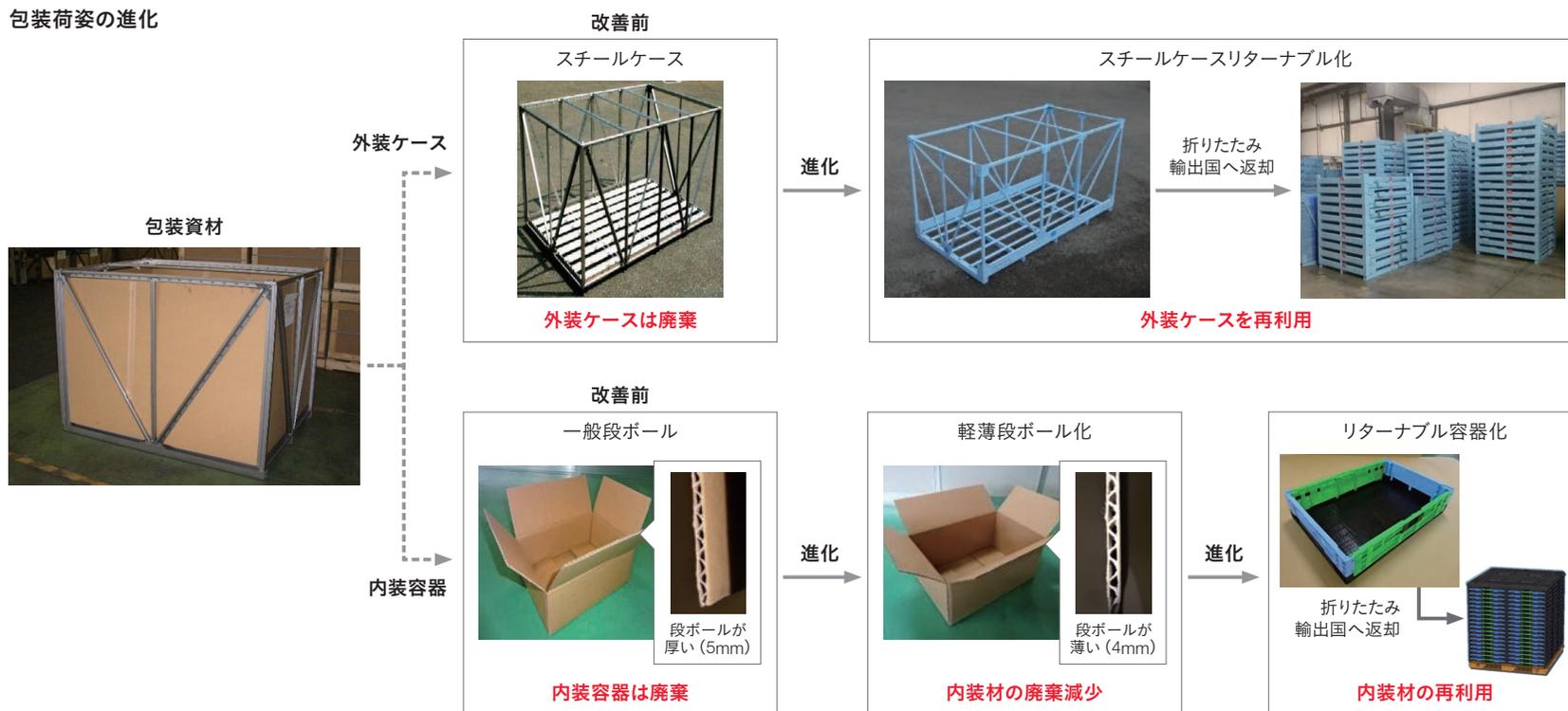
従来の包装資材は、輸入国において廃棄物となります。そこで、容器の再利用・包装資材の軽量化などの取り組みにより廃棄物削減やCO2排出量の低減につなげています。

また、同業他社と協力し、再生材の共同利用の検討を進めています。

包装資材の分類と進化

包装資材	用途	包装技術の進化
外装ケース	コンテナへ積み込むための容器	スチールケースリターナブル化
内装容器	外装ケースへ入れるために部品をおさめる容器	軽薄段ボール化 リターナブル容器化

包装荷姿の進化



4 社会

【安全】…………… 33

【品質】…………… 47

【人材】…………… 63

【サプライチェーン】…………… 87

基本的な考え方…………… 88

購買の基本的な考え方…………… 89

購買のグローバルマネジメント
…………… 91

購買に関する取り組み…………… 92

物流の基本的な考え方…………… 97

物流のグローバルマネジメント
…………… 98

物流に関する取り組み…………… 99

> 業界団体・サプライヤーとの
取り組み…………… 102

【社会貢献活動】…………… 103

業界団体・サプライヤーとの取り組み

Hondaは、自動車業界およびサプライヤーとの連携によるキャパシティビルディング（能力向上）の実施などを通じて、部品・物流のサプライチェーン全体でのサステナビリティ強化に取り組んでいきます。

業界団体・サプライヤーとの連携

Hondaの米国子会社ホンダノースアメリカ・インコーポレーテッドは、AIAG※1がサプライチェーンにおけるサステナビリティ強化を目的に設置している「責任ある鉱物調達」「人権と取引」「温暖化対策」「化学物質管理」の4つの作業部会に参加しています。AIAGにおいては、サプライヤーを対象とした研修を進めており、2012年から北米地域で一次・二次サプライヤーに参加いただき、企業倫理、環境規制、労働環境、人権などの研修会を実施しています。

また、自動車業界内外の問題、ニーズ、および動向を積極的に特定することを目的として、AIAGの企業責任運営委員会やDrive Sustainability※2にも参加しています。

さらに北米地域では、サプライヤーに対し、サステナビリティ（環境、輸出管理、社会的責任、安全衛生、多様性、ガバナンス、コンプライアンス・倫理）をテーマに、CBT※3を活用したe-ラーニングを提供し、サステナビリティに関する理解促進に努めています。

※1 AIAG: Automotive Industry Action Group(全米自動車産業協会)の略。
 ※2 自動車業界のサステナビリティを推進するための新たに発足されたパートナーシップ。
 ※3 Computer Based Trainingの略。コンピューターを利用した学習。
 ※4 GHG: Greenhouse Gas(温室効果ガス)の略。

サプライヤーとの対話

2022年12月に、サステナビリティ情報共有会を開催し、社会動向の共有およびHondaサプライヤーサステナビリティガイドラインに沿ったサプライヤー点検結果のフィードバックを実施しました。

またHondaは、サプライヤーと事業の方向性や取り組み内容を共有する懇談会を世界各地で定期的に行っています。2022年度は、世界23ヵ所で開催しました。そこでは、QCDDDEなどの各領域においてとくに優れた実績を残されたサプライヤーに対して、「サプライヤーアワード」として感謝賞を贈呈しています。

日本地域では、1974年から年1回の懇談会を開催しています。2023年2月の懇談会はオンラインと対面のハイブリッド形式で開催、サプライヤー約470社の経営トップに参加いただきました。ここではHondaから全社方針や、二輪・四輪・パワープロダクツ各事業の方針を発信しました。さらに2017年度から、ESG全領域における優れた取り組みをされたサプライヤーに対する、「サステナビリティ賞」の贈呈を開始しました。本表彰は、GHG※4に主眼を置いていた旧来の「環境賞」から、社会・ガバナンスにまで観点を広げたものです。

北米地域でも、コンプライアンス、安全衛生、地域社会貢献活動、環境、多様性および人権などにおいて最も貢献されたサプライヤーに対して、「Sustainability Award」の表彰を行っています。



日本地域でのサステナビリティ部門表彰
日本特殊陶業株式会社様